

令和元年度丹波の森夢会議記録

平成30年4月に発足した第9期丹波地域ビジョン委員会では、丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」に掲げる「自立」、「交流」、「元気」、「絆」、「安全安心」の5つの将来像をめざし、6つのグループが実践活動に取り組みました。

2年間の任期の締めくくりにあたり、その活動成果を広く発信するとともに、丹波地域で夢の実現に取り組む方々との対話等を通して地域の未来を考え、今後の「丹波の森づくり」や「兵庫2030年の展望」の実現に向けてさらなる活動の展開を図る「丹波の森夢会議」を開催しました。

- 1 開催日時 令和2年2月15日（土） 13:30～16:00
- 2 場 所 丹波の森公苑多目的ルーム
- 3 テーマ 「あなたの夢を応援します！～あなたの想いを実現しましょう～」
- 4 参加者 82名
- 5 内 容

(1) 開会あいさつ

伊勢隆雄 丹波地域ビジョン委員会委員長

- ・ビジョン委員会は、「丹波地域ビジョン」や「兵庫2030年の展望」など“目標”の実現を目指している。第9期の実践活動では、PDCAサイクルを効果的に回すことができ、良い活動成果が得られたと思う。
- ・実践活動で生まれた新たな人の「つながり」が、地域をさらに盛り上げていくきっかけとなることを期待している。



飯塚功一 丹波県民局長

- ・ビジョン委員会の取組は、県民局の施策とも相通ずる部分が多く、しかも行政とはひと味違う視点や手法から展開されており、まさに「参画と協働」が実践されている。
- ・丹波地域で夢の実現に取り組む方々のプレゼンテーションからは、地域の魅力を最大限に活かし、人口が減少しても将来への希望が持てる地域を目指すためのヒントを得たい。



(2) 明智光秀ゆかりの三山ドローン映像（つなぐグループ制作）上映

大河ドラマ『麒麟がくる』の放映開始で注目される明智光秀ゆかりの地。「丹波攻め」の舞台となった、三山（八上城、黒井城、金山城）を“つなぐ”活動に取り組んだグループが、三山の魅力を伝えようと制作した映像作品『時空を超えて～光秀がつなぐ丹波～』を上映しました。



(3) 第9期丹波地域ビジョン委員会実践活動グループ活動報告

①発見「食」丹波

地域の埋もれた“MOTTAINAI”食材の活用
【栗】

- ・高校と連携した、栗の熟成技術の啓発やスイーツ開発支援
- ・小粒・割れ栗等、味は良いが市場で高値のつかないを活用した新商品「マッシュマロン」の開発

【柿】 地域で収穫しきれない柿を都会の子ども食堂へ提供

【お茶】「寒茶」のPR



②グループつなぐ

光秀ゆかりの地での、人と人、地域と地域、過去と未来…等々を“つなぐ”取組

- ・金山登山・鐘ヶ坂トンネル（明治・昭和）見学イベント（H30.9.29）
- ・明智光秀ゆかりの金山、八上城、黒井城をつなぐ講演会（H31.1.20）
- ・金山、八上城、黒井城を「のろし」でつなぐイベント・鐘ヶ坂昭和トンネルコンサート（H31.4.28）
- ・金山山頂の眺望整備（R元.7.14、9.14、11.10）
- ・金山、八上城、黒井城のPR映像制作

③建築学校プロジェクト

地元の若手工務店による、実際の古民家を教材にした「篠山建築学校」の立ち上げ

- ・「篠山建築学校」（H30.8～11月）
神戸芸術工科大学が中心に、大学のカリキュラムの一環として実施
- ・「篠山建築学校 2019」（R元.8.26～8.30）
一般公募事業として実施。国内外（アメリカ、中国、タイ）から広く参加。



④高齢者の生きがいづくり

誰もがいつまでもいきいきと暮らせる地域づくり

- ・秋の健康体操講座（いす体操、骨粗鬆症予防、歌の時間）（H30.11.25）
- ・『認知症の方との付き合い方』啓発冊子の作成
- ・8050問題関連学習会の開催（①R元.11.30、②R2.1.25）

⑤ほっとねっと輪—く

めざそう！住みよいまちづくり

- ・生きづらさを抱える人への支援
コミュニティカフェの開催、ひきこもり学習会の開催、支援マップの配布
- ・安全安心啓発活動（防災・防犯・男女共生、ヘルプマークの普及等）
自治会等への出前講座、子ども向け防災ワークショップの開催



⑥休耕田を活かそう！

耕作放棄地対策の試行

山際、機械が入りにくいなど耕作条件の悪いモデル地で、高齢者や女性にもできるような対策を試行

- ・ソバの栽培、収穫祭の開催
- ・山椒の栽培
- ・クローバーによる草抑え



【コメント】

横山宜致 丹波地域ビジョン委員会専門委員

- ・発見「食」丹波グループのお茶の取組が、規模の大きい味間地区ではなく、山間の後川地区に注目していることが良い。後川のお茶は、景観的にも重要な地域資源。
- ・地域づくり活動は、まちづくり協議会など旧小学校区単位で取り組まれることが大半だが、つなぐグループは市域をも超えた取組となっていることが画期的。
- ・地域の景観を保全するうえで、地元工務店の果たしている役割は大きい。若手工務店が建築学校のような取組を行ったことは意義深い。

小橋昭彦 丹波地域ビジョン委員会専門委員

- ・地域づくり活動という、「活性化」を目的とする取組が中心となりがちだが、高齢者の生きがづくりや、ほっとねっと輪—くグループのような、福祉分野での地道な取り組みも行われていることに、ビジョン委員会の存在意義がある。
- ・休耕田を活かそう！は、グループ立ち上げの時には活動が上手くいくか心配したが、ソバを栽培し、収穫祭で地元とも交流できたとのことで、活動報告をうれしく聞いた。



(4) 丹波地域で夢の実現に取り組んでいる方のプレゼンテーション

①足立 大地 さん シンガーソングライター、会社員（丹波市）

- ・生まれも育ちも丹波市だが、都会に憧れがあり、高校卒業後に大阪へ出て音楽を勉強し、プロのミュージシャンを目指してライブ活動等を行っていた。
- ・しかし、ある日突然「地元に戻ろう」と思った。理由は明確ではないが、ふるさとはそう思わせる何かがあると思う。
- ・丹波では、働きながら音楽活動を続け、地元の歌も歌っている。
- ・『地元の友達』を熱唱。
- ・いつか、丹波の森公苑のホールを超満員にして、ライブを開催したい。



②熊谷 篤 さん 丹波市地域おこし協力隊員、旅行業（丹波市）

- ・JTBに23年勤務し、早期退職して旅行会社を起業した。
- ・訪日外国人向けの国内旅行企画を主に手がけている。

- ・丹波市の観光の魅力は、自然、人の営み、上質な食材であり、ありのままの丹波市を楽しんでもらう商品を企画している。
- ・地元にとっての何気ない「日常」が、外国人にとっては「非日常」（例えば、蛙、水田、干し柿でさえ観光資源）。
- ・今後丹波地域で、次世代の観光業界の担い手を育成したい。

③児島 佳史 さん 丹波篠山市地域おこし協力隊員、ベーカリーカフェ/寺子屋運営（丹波篠山市）

- ・子どもの頃からパンが好きで、大学卒業後、パン屋（会社）に就職した。
- ・しかし、会社の仕事が合わず、「会社のエキストラではなく、自分自身の物語の主人公として生きよう！」と決め、退職。
- ・大学の友人が元地域おこし協力隊員だったこと等から、自分も篠山の地域おこし協力隊員となった。
- ・「この場所（公共スペース）を盛り上げてほしい」という地元の要望により、ベーカリーカフェを起業し、夜は子どもに勉強を教える寺子屋を開催。
- ・2年後には篠山駅前に2店舗目、5年後には都心に、10年後はフランスに店を出したい。（パンを買いにくるフランス人が、フランスパンではなくあんパン等を好むので、日本のパンがフランスで売れるのでは）

④小牧 満也 さん 元丹波篠山市地域おこし協力隊員、林業（丹波篠山市）

- ・元々公務員志望で、森林ボランティアとして活動する中で、丹波篠山の大山地区と関わるようになった。
- ・地域と山の関わりにふれ、地元の方と話し、一緒に汗を流す中で、自分の「使命」を感じて林業で起業した。
- ・林業はやりがいもあるが、困ったことも多い（予想以上の泥仕事、ハイエナ的な仕事、騙し合い的な側面）。
- ・今後は、1. 関西最大級の銘木市に木を出したい 2. 植林がしたい 3. 自分の山を持ちたい 4. 木こりとしての専門性を高め、知識等を山の所有者や村と共有し、村の防衛力を高めたい。
- ・どうしていいのか誰にもわからない山の問題があり（植林が必要？ 経営的観点か景観的観点か？ 社会活動と業者と学者の相容れない関係性？）、この夢会議のような場で話し合ってみたい。



(5) まとめ

講評：金澤和夫 兵庫県副知事

- ・実践活動グループの活動については、グループごとにテーマは異なるが、地域で活かされていないものを活用していること、そして、地域内外の人とつながり、みんなで活用に取り組んでいることが共通していると感じた。
- 発見「食」丹波：活用されていない食材での新商品開発。大阪の子ども食堂とのつながり
- つなぐ：光秀ゆかりの三山という地域資源の活用。市域を超えたつながり。



- ▶ 建築学校プロジェクト：空き古民家の活用。国内・世界の学生とのつながり
 - ▶ 休耕田を活かそう！：休耕田の活用。地元自治会とのつながり。
 - ▶ 高齢者の生きがいづくり：当事者どうしのつながり。高齢者虐待、認知症などは出口の無い課題だが、結果が出なくても正目なら取り組むことに意義がある
 - ▶ ほっとねっと輪—く：地域のつながり。生きづらさを抱える人への支援は、地域の強靱化にもつながる
- 地域で夢を実現している唐のプレゼンテーションについては、全員の夢をぜひ実現させてほしいと思った。
 - ▶ 足立大地氏：歌を聴き、ホールでの公演が実現する日は近いのでは、と感じた。
 - ▶ 熊谷篤氏：次世代の育成は重要。ぜひ地元で人材を育ててほしい。
 - ▶ 小島佳史氏：「フランス店」という大きな夢に向かって活躍してほしい。
 - ▶ 小牧満也氏：森林・山の保全是、地域社会のレジリエンスにつながる重要な課題。
 - 人口減少が進んでいる。出生数は4万人を下回っている。社会移動による人口流出も昨年は7,260人に上り、しかもほとんどが20歳代である。若い世代の流出が出生減に拍車をかけ、結婚しない人の増加も少子化の原因となっている。
 - 対策は講じているが、高校生などの若い世代が「東京や世界で活躍したい」という夢を持つことを止める訳にはいかないとこが難しい。丹波地域の若者も、希望する人には広い世界で活躍してほしい。
 - 一方、東京など大都市圏で、都会生活に生きづらさを感じている若者もいる。そういう人々を丹波地域に呼び込むような地域の魅力を打ち出すことが必要。
 - そのためには、「隗より始めよ」。中国の戦国時代に、隗が燕の昭王に、賢臣を求めらるならまず自分のようなつまらない者を登用せよ、そうすれば賢臣が次々に集まって来るだろうと言ったという故事のように、人を大切にすると地域であれば、人が集まってくるのではないか。
 - 人を惹きつける地域になるためには、そこで暮らしている人が生き生きと輝いている姿を見せ、地域外の人に魅力を感じてもらうことが重要。皆さんが「見本」となり、人が魅力的に輝く地域づくりを進めていただきたい。

以上